



## スキー場諸元

名称：オグナほたかスキー場

総面積	45 ha
コース数	13本
標高差	655m (1,148m-1,803 m)
最大斜度	32度 (エキスパート)
リフト総延長	4,185 m
リフト数	6基
事業者	片品村振興公社(株) (提携：日本スキー場開発(株))
開業時	武尊山観光開発(株)

## スキー場下部からは想像できない広々ゲレンデ

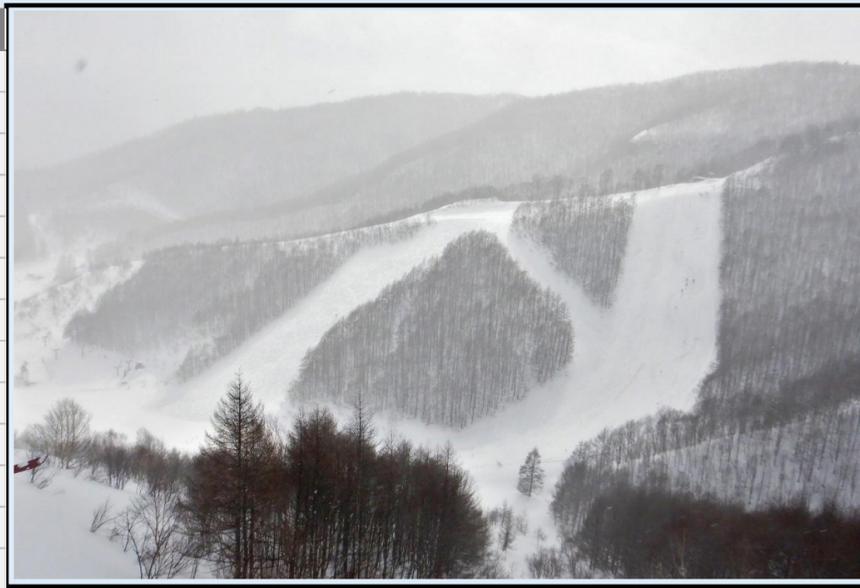
オグナほたかスキー場は、谷と尾根を活かした地形が特徴的なスキー場。片品村により1975年に国設武尊スキー場という名称で開業し、1997年に現在の名称であるスノーパル・オグナ武尊スキー場に名称変更された。スキー場下部はこじんまりとした雰囲気があるが、第2口マンスへ乗車しゲレンデ中腹へ向かうとすり鉢状の開けた景色が広がり、多彩なゲレンデが広がる。また、スキー場山頂は標高2,000mに近く良質の雪が降りパウダースノーを楽しめ、植生も山麓部とことなるためまた違った雰囲気も味わうことができる。比較的中規模なスキー場であるが、リフトはすべて低速ペアであり、山頂まで行くのに1時間程度かかることは欠点といえる。

オグナほたかは、他の尾瀬エリアのスキー場と比較し地味なイメージがあったが、2021年より岩岳・梅池などを運営し数々のスキー場を再生復活させてきた、日本スキー場開発社(NSD)とアライアンス・パートナーリゾートを結んでおり今後の改革にも期待される。

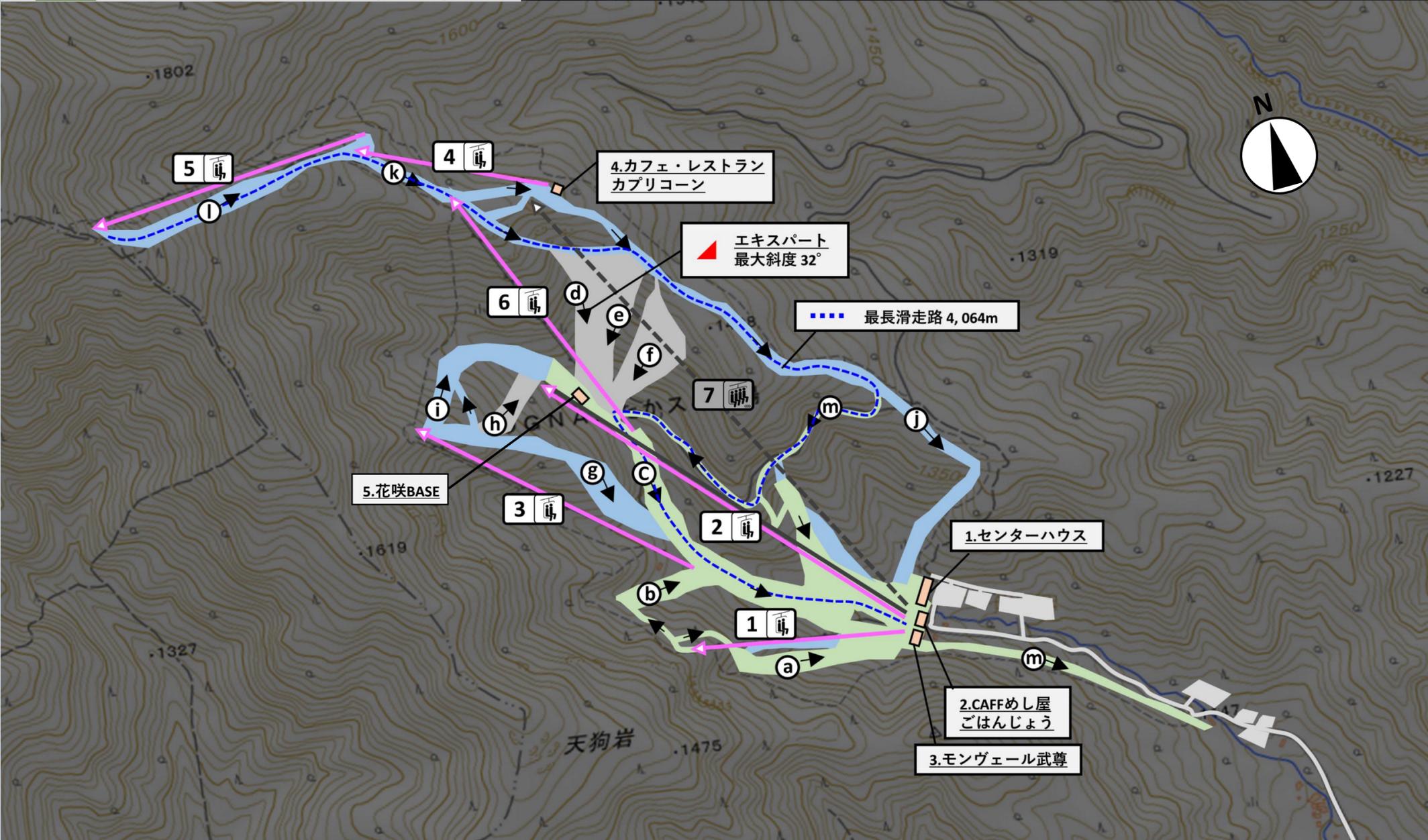


# コースマップ

No.	レベル	名称	Ave[°]	Max[°]
a	初	第1ゲレンデ	12	20
b	初	ロマンス連絡	13	18
c	初	ロマンス	8	12
d	上	エキスパート	20	32
e	上	スラローム	22	30
f	上	トレーニング	20	30
g	中	第4ゲレンデ	18	28
h	上	ウェーデルン	22	30
i	中	大沢	20	25
j	中	ほたかスカイウェイ	14	26
k	中	第5ゲレンデ	10	12
l	中	第6ゲレンデ	18	25
m	初	初心者迂回	2	3



◀h,l:ウェーデルン,大沢谷に向かって滑り落ちるコース。斜度もあり難易度も高い。



No.	定員	形式	フード	名称	キロ程[m]	キロ程グラフ	山麓標高[m]	山頂標高[m]	高低差[m]	高低差 グラフ
1	2	CLF	-	第1ペア	535		1,243	1,390	147	
2	2	CLF	-	第2ロマンス	1,036		1,242	1,401	159	
3	2	CLF	-	第4ペア	759		1,319	1,533	215	
4	2	CLF	-	第5ペア	461		1,556	1,615	60	
5	2	CLF	-	第6ペア	704		1,614	1,802	189	
6	2	CLF	-	第7ペア	690		1,363	1,585	222	
7	4	CLD	-	▲第3クワッド	1,414		1,242	1,559	317	

■: 連絡線 ▲赤字: 休止中/廃止



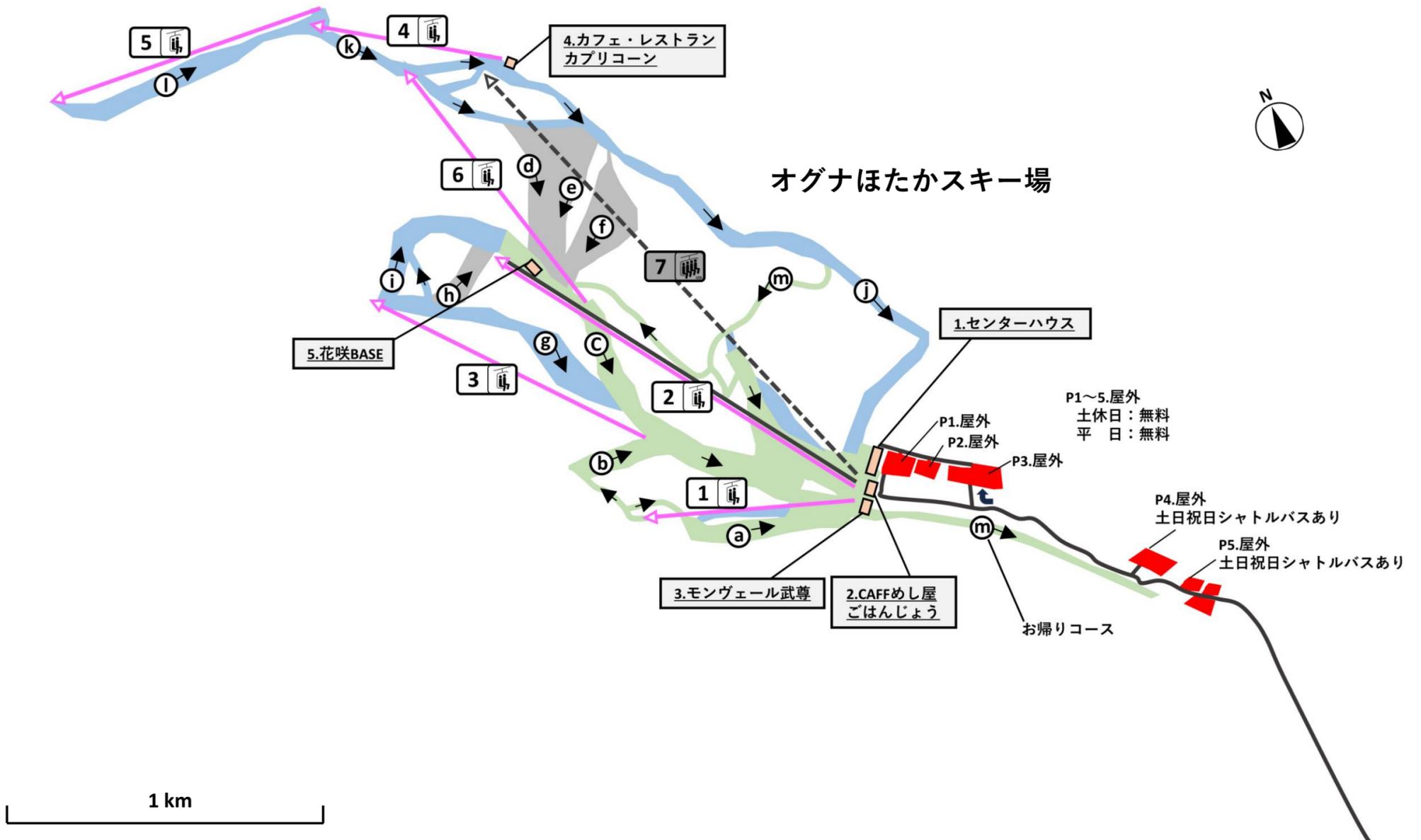
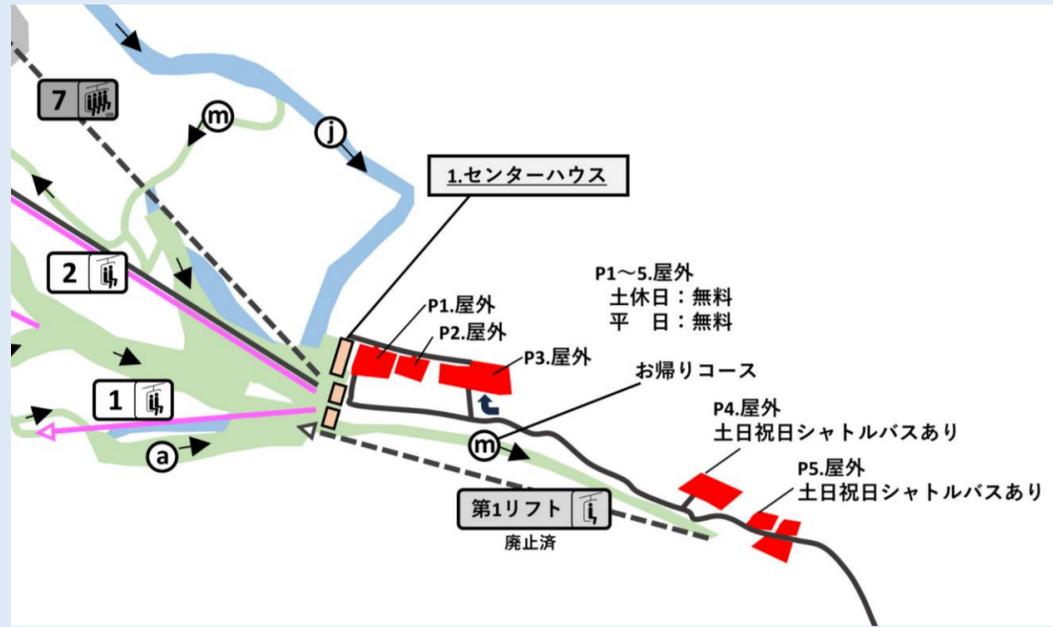
# 駐車場・アクセス情報

## P1～5.屋外駐車場

時間(平日)	24時間開放
(休日)	6:00～19:00頃
料金(平日)	無料
(休日)	無料
収容台数	約1,000台

- ・P3～5は土日祝日センターハウスまでのシャトルバス運行
- ・駐車場オープン前はP5(トイレ付)を利用

**廃止された第1リフト**▶  
P4,5からゲレンデまでは第1リフトがあったが、現在は廃止されているためシャトルバスを利用する必要がある。



## ▼ 駐車場入り口ゲート



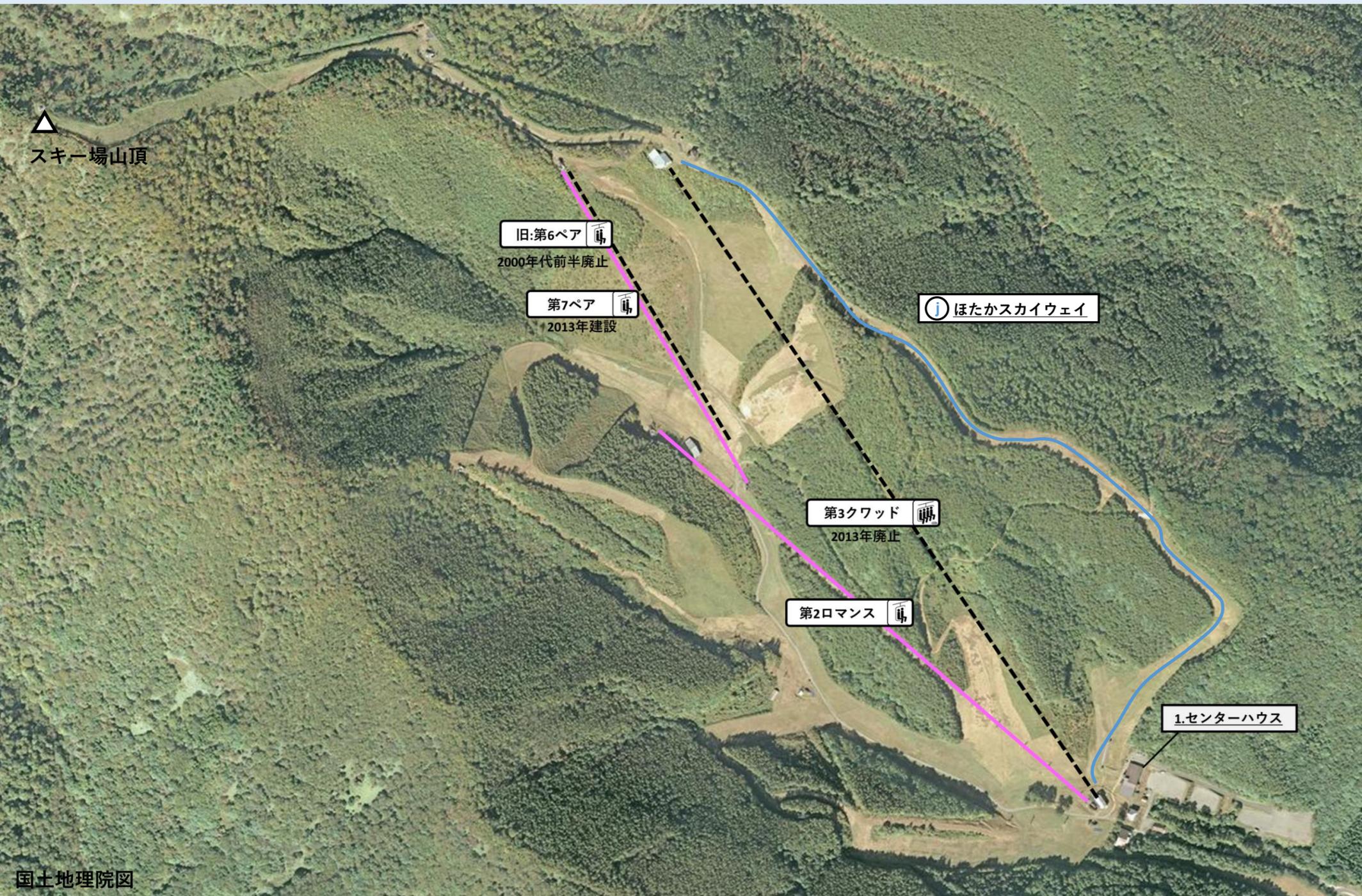
## ▼ b:第2連絡コース

平坦な連絡コースであり、スケーティングが必要な箇所あり。





## 7.第3クワッド



### 線路諸元

名称：第3クワッド

旧称：第8クワッド

方式	単線自動循環式特殊索道
傾斜長	1,414 m
高低差	370 m
輸送能力	1,200 p/h ?
回転方向	反時計
支柱数	? 基
速度	4.0 m/s
定員	4 名
搬器	Garaventa
原動出力	? kW
緊張方式	?
原動位置	?
緊張位置	?
事業許可年月	1994年10月
運行開始年月	1994年12月
廃止年	2013年
メーカー	三菱重工

## 廃止されたオグナ唯一のクワッド

現在のオグナほたかは、中規模クラスのスキー場でありながら、高速クワッドが存在しないが、かつては第3クワッドが存在していた。第3クワッドはゲレンデ山麓部からゲレンデ中腹までの1,414mを結び、ゲレンでの大半をカバーしていたが、2013シーズンに機械故障により運行不能となりそのまま廃止されてしまった。修理ではなく廃止となった理由として、第3クワッドはリフト事業を撤退した三菱重工製のリフトであったため修理対応や部品調達が困難を極めたためそのまま廃止が決まった。なお、架け替えはクワッドでの架け替えと中腹部のみペアでの架け替えが検討されたようだが、安価なペアでの架け替えとなった。第3クワッドが廃止された2013年にゲレンデ中腹部に第7ペアが第3クワッドの代替として建設された。(架け替え費用 クワッド:6億~9億円程度, ペア:2億円程度 ※) 第7ペアは固定循環式のリフトであるため、運転速度がクワッドよりも遅く、山麓から第3クワッド山頂まで、第2ロマンス→第7ペアを乗り継いで20分以上時間がかかるようになってしまい、スキー場としては実質グレードダウンとなってしまった。快適なクルージングが楽しめるロングコースであるほたかスカイウェイコースは第3クワッドで回すことができたが、現在は1本滑走するのに45分以上を要し実質お帰りコース化しているのが残念でならない。

※:Wikipedia/片品村議会会議録 平成25年 定例会より

## 7.第3クワッド

▼2013年の廃止より2年後の2015年にに機器類は撤去され、現在は山麓山頂停留所の駅舎のみが残る。



▼山麓停留所は大きな駅舎であり車庫線が設置されていた。



# 1.第1ペア



▼山麓停留所



▼山頂停留所



## 線路諸元

名称：第1ペア

旧称：第2ペア

方式 単線固定循環式特殊索道

傾斜長 530 m

高低差 172 m

輸送能力 1,200 p/h

回転方向 反時計

支柱数 10 基

速度 2.3 m/s

定員 2 名

搬器 モデルE

原動出力 ? kW

緊張方式 油圧

原動位置 山麓

緊張位置 山麓

事業許可年月 1988年8月

運行開始年月 1988年12月

メーカー 日本ケーブル

延長改造 2003年

# 1.第1ペア

2003年に延長改造されたため新旧の支柱の作業アームが混じる。



# 1.第1ペア



## 2.第2ロマンス



### 線路諸元

名称：第2ロマンス

旧称：第7パラレルA.B

方式	単線固定循環式特殊索道
傾斜長	A:1,034m, B:1,035m(休止)
高低差	159 m
輸送能力	A:1,200 p/h, B:1,200 p/h
回転方向	A:時計, B:反時計
支柱数	A:19 基, B:18基
速度	? m/s
定員	2 名
搬器	旧搬器
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山麓
事業許可年月	1988年11月
運行開始年月	1988年12月
メーカー	東京索道

▼山麓停留所



▼山頂停留所



## 2.第2ロマンス



## 2.第2ロマンス



### 3.第4ペア



▼山麓停留所



▼山頂停留所



#### 線路諸元

名称：第4ペア

旧称；第4ロマンス

方式 単線固定循環式特殊索道

傾斜長 758 m

高低差 220 m

輸送能力 1,200 p/h

回転方向 時計

支柱数 15基

速度 ? m/s

定員 2名

搬器 モデルE

原動出力 ? kW

緊張方式 油圧

原動位置 山麓

緊張位置 山麓

事業許可年月 1988年8月

運行開始年月 1988年12月

メーカー 日本ケーブル

延長改造 2003年12年

### 3.第6ペア



g:第4ゲレンデ



## 4.第5ペア



▼山麓停留所



▼山頂停留所



### 線路諸元

名称：第5ペア

旧称：十二沢第1

方式 単線固定循環式特殊索道

傾斜長 461 m

高低差 60 m

輸送能力 1,200 p/h

回転方向 時計

支柱数 10 基

速度 ? m/s

定員 2 名

搬器 モデルE

原動出力 ? kW

緊張方式 油圧

原動位置 山頂

緊張位置 山頂

事業許可年月 1989年11月

運行開始年月 1990年12月

メーカー 日本ケーブル

#### 4.第5ペア



## 5.第6ペア



▼山麓停留所



▼山頂停留所



### 線路諸元

名称：第6ペア

旧称：十二沢第2

方式 単線固定循環式特殊索道

傾斜長 704 m

高低差 190 m

輸送能力 1,200 p/h

回転方向 時計

支柱数 15 基

速度 ? m/s

定員 2 名

搬器 モデルE

原動出力 ? kW

緊張方式 油圧

原動位置 山麓

緊張位置 山麓

事業許可年月 1989年11月

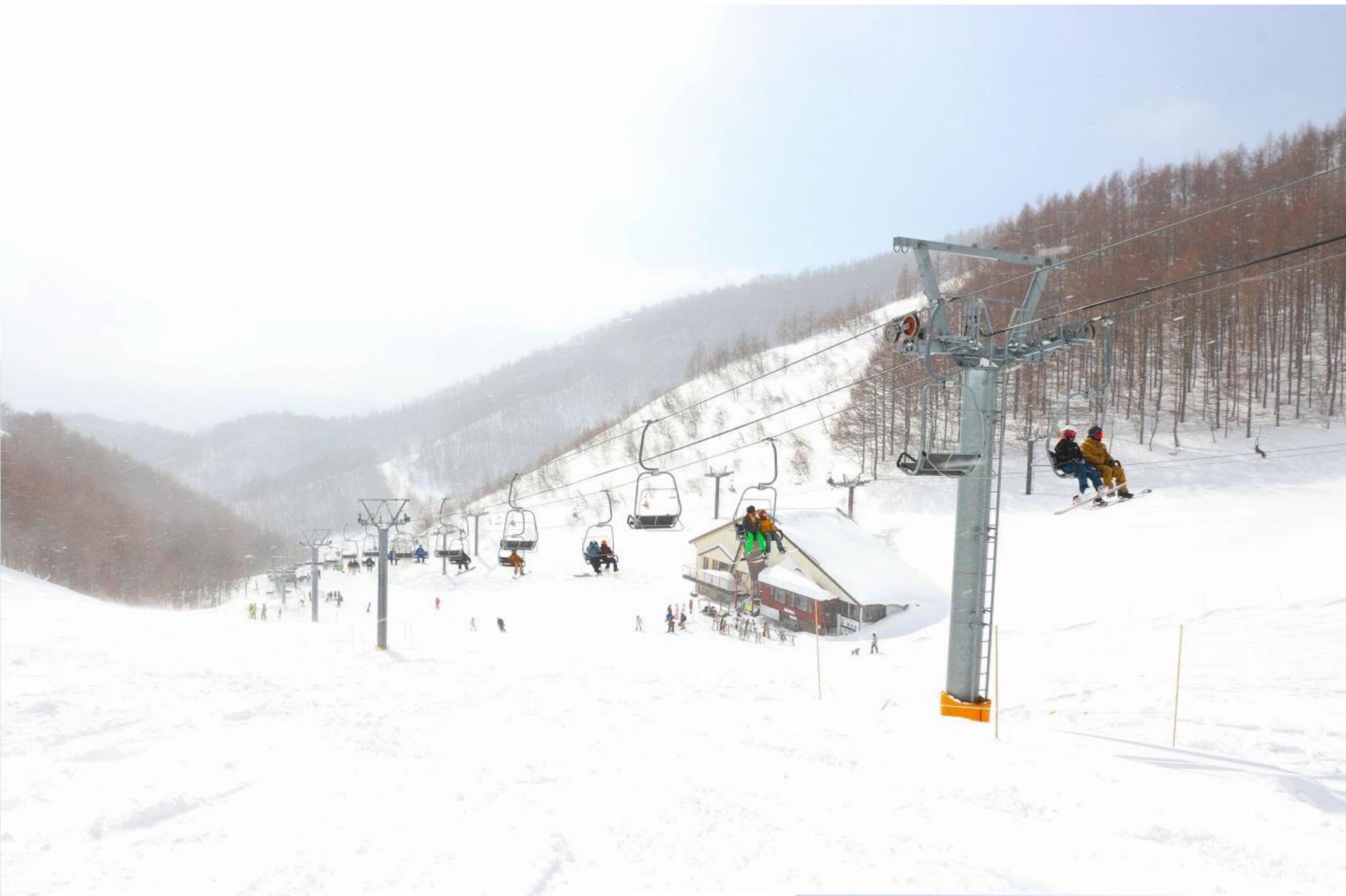
運行開始年月 1990年12月

メーカー 日本ケーブル

# 5.第6ペア



## 6.第7ペア



### 線路諸元

名称：第7ペア

方式	単線固定循環式特殊索道
傾斜長	690 m
高低差	222 m
輸送能力	1,200 p/h
回転方向	反時計
支柱数	13 基
速度	2.0 m/s
定員	2 名
搬器	旧型
原動出力	? kW
緊張方式	油圧
原動位置	山麓
緊張位置	山麓
事業許可年月	2003年?月
運行開始年月	2003年12月
メーカー	日本ケーブル

▼山麓停留所



▼山頂停留所



## 6. 第7ペア



## 6.第7ペア

